

渡嘉敷ペークー

(十日月・味噌・競馬・米俵)

渡嘉敷ペークーんちよー、首里ぬ城ぬ王とう、友達
ぐわーやたんでい。

あんしなー、碁打ちなー王様とう毎日、囲碁打ちゆ
たんでいよーなー。あんすくとう、今日やなー、まー
から人夫達出すがんでい言ちやくとう、渡嘉敷からん
ちい王様が言たんでい。

あんさくとう渡嘉敷ペークーや、うぬ日なたくとう
時間遅りてい来やんでい。来やくとう、

「何んちいやーやなまでいーから、いやーや仕事しー
が来が、時間のー遅さんどー」んちやくとう、

「月ぬ上がある頃までい、月ぬ上がいぬふどう、仕事
さびーささい。私たー月ぬ上があるふどうさびーさ」
んち。

あんし、王様ぬしんでいちやくとう、一時ぐわーさ

くとう、月えー上がいたんでい。

「月えー上がたん、はいしこーれー。私たーにんずし

こーれー、家かい」んでい、いちやくとう、

「何がいったー」んちやくとう、

「あり、月えー上がとーん」ちやくとう、むのー言う
さんたんでい。十日ぬ月えー屋から上がいくとう、う
れーいつペー知恵のーあたんでい。あんしむのー言う
さんたんでい。

あんさーに、うれーどうく知恵ぬちゆーさぬ、馬走
らしぬちやくとう、他人やなー雄馬なかい、ちゆらす
がいしみてい来ゆーしが、くぬ渡嘉敷ペークーや、ク
リヤーぬ雌馬、雌馬持つち来やんでい。

持つち来やくとう、雄馬んでいせー、クリヤー馬る
追とーる、前かいや歩かんるあんでいんどー。

「ちやがさい、私が負かちゃんやー」んちやんでい
あんしまた囲碁打つちからよー、家かい帰いねー、
「いえー王様、私たーや食むし無びらんどー」んでい

渡嘉敷ペークーと言って、首里のお城の王様と、友
だちだったそう。

それでも、囲碁を打って王様と毎日、囲碁を打っ
ていたそうだよ。それで、今日は、どこから人夫を出
しますかと言うと、渡嘉敷からと王様がおっしゃった
そうだよ。

それで、渡嘉敷ペークーは、その日になったので時
間を遅れて来たそうだよ。遅れて来たので、
「どうしておまえは今頃から、お前は仕事をしに来る
のか、時間は遅いよ」と言うのと、

「月の昇る頃まで、月の昇るまで、仕事をします。我々
は月の昇るまで仕事をします」と言うのと。

それで、王様が仕事をしなさいとおっしゃると、一

時間ぐらいすると、月が昇ったそうだよ。

「月は昇った、さあ準備しよう。われわれの仲間は支
度しなさい、家に帰ろう」と、言うのと、

「何だお前たちは」というと、

「あれ、月は昇っている」と言うのと、ものは言えなかつ
たそう。十日の月は屋から上がるので、ペークーは
知恵があつたので、何とも言えなかつたそう。

それで、ペークーはあまり知恵もちだから、馬競争
のときに、他の人は雄馬を、飾り立てて来たが、この
渡嘉敷ペークーは、さかりのついた雌馬、雌馬をつれ
て来たそう。

つれて来ると、雄馬は、さかりのついた雌馬を追う
ので、前には走らないんだそう。

「どうですか、私が負かしましたよ」と、言ったそう。
それからまた囲碁を打って、家に帰るときには、
「ねえ王様、うちは食べる物が有りませんよ」と言う

ねー、

「あんせー持つち行けー。ペークめー味噌、渡嘉敷ペークーんかい、味噌持たちやらせー」んてい言ねー、味噌んかい花挿ち持つち去いたんでいよー。あんしーねー、花鉢ふーじーなてい、味噌んでいちえーわからんせーやー。あんさーに、うりからまた、
「食むしや無らんくとう、米いーら」んてい言いたんでい。

「馬んかい、一俵負うして、持つち去れー」んちゃくとう、

「二俵や、片荷なてい、負うしらんどー」んちゃくとう、
「二ち持つち行らせー」んち、二俵持ち去たんでい。

渡嘉敷ペークーでいしや、渡嘉敷ん人、いっペー
王様とう友やたんでい。

うぬ王様、うん人が言るままたんでい。

字小波蔵 伊敷カミ

と、

「そんなら持つて行きなさい。ペークーに味噌、渡嘉敷ペークーに、味噌をあげなさい」と言うと、味噌に花を挿して持つて行つたそうだよ。そうすれば、花鉢のようになり、味噌とはわからないからね。そして、それからまた、

「食べるのが無いから、お米を下さい」と言うと、

「馬に一俵乗せて、持つて行きなさい」とおっしゃるので、

「二俵では片荷になつて乗せられません」と言うと、

「二俵持つて行きなさい」ということで、二俵持つて行つたそうだ。

渡嘉敷ペークーは、渡嘉敷の人で、とても王様と仲よかつたそうだ。

この王様は、ペークーの言いなりだつたそうだ。